

(1) C_1, C_2 が相異なる3点で交わるためには、 $x^3 - ax^2 - bx - c = 0$ が相異なる3つの実数解を持つこと。

C_1 が相異なる3つの実数解 α, β, γ を持つとき、 $x^3 - ax^2 - bx - c = (x-\alpha)(x-\beta)(x-\gamma)$ と書ける

C_1 上の点 (α, α^3) で C_1 に接する直線は $y - \alpha^3 = 3\alpha^2(x - \alpha)$

これが (p, p) を通るから $p - \alpha^3 = 3\alpha^2(p - \alpha)$ 、 $2\alpha^3 - 3p\alpha^2 + p = 0$ — ①

同様に C_2 、 $2\beta^3 - 3p\beta^2 + p = 0$ — ②、 $2\gamma^3 - 3p\gamma^2 + p = 0$ — ③

①②③ ≠ 1 α, β, γ は $x^3 - \frac{3}{2}px^2 + \frac{1}{2}p = 0$ の相異なる3つの実数解であるから

$$x^3 - ax^2 - bx - c = x^3 - \frac{3}{2}px^2 + \frac{1}{2}p \quad \begin{cases} a = \frac{3}{2}p \\ b = 0 \\ c = -\frac{1}{2}p \end{cases}$$

(2) $x^3 - \frac{3}{2}px^2 + \frac{1}{2}p = 0$ が相異なる3つの実数解を持つためにはならない。

$f(x) = x^3 - \frac{3}{2}px^2 + \frac{1}{2}p$ とする。 $f'(x) = 3x^2 - 3px = 3x(x-p)$ 、 $f'(x) = 0$ のとき $x = 0, p$

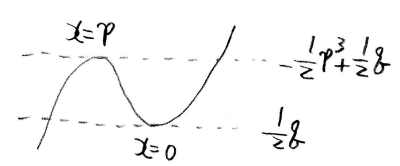
$p \neq 0$ とする。

(i) $p < 0$ のとき

x	...	p	...	0	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	\nearrow	$-\frac{1}{2}p^3 + \frac{1}{2}p$	\searrow	$\frac{1}{2}p$	\nearrow

$f(x)$ の増減表は左表

$f(x)$ のグラフは右図



$\frac{1}{2}p < 0$ から $-\frac{1}{2}p^3 + \frac{1}{2}p > 0$

$p < 0$ から $p > p^3$

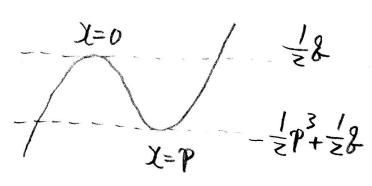
$p^3 < p < 0$ であるから

(ii) $p > 0$ のとき

x	...	0	...	p	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	\nearrow	$\frac{1}{2}p$	\searrow	$-\frac{1}{2}p^3 + \frac{1}{2}p$	\nearrow

$f(x)$ の増減表は左表

$f(x)$ のグラフは右図



$-\frac{1}{2}p^3 + \frac{1}{2}p < 0$ から $\frac{1}{2}p > 0$

$p < p^3$ から $p > 0$

$0 < p < p^3$ であるから

以上より、 $p < 0$ から $p^3 < p < 0$ 、または、 $p > 0$ から $0 < p < p^3$